



# 健診センターニュース



## 腫瘍マーカー検査とは？

病院や人間ドック・健診などでよく耳にする「腫瘍マーカー」ですが、この検査でいったい何がわかるのでしょうか？今回は臨床検査技師さんから詳しく説明していただきます。

体のどこかに「がん」ができると、それぞれの「がん」特有の物質が作られ、血液や尿に流れ込むようになります。この物質の濃度を測定すれば「がん」の存在が推定できます。このような物質のことを「腫瘍マーカー」と言います。

### Q「腫瘍マーカー」にはどんな種類があるの？

がんのできた臓器によって、いろいろな腫瘍マーカーがあります。それぞれの腫瘍マーカーでどの臓器のがんが見つかるのか、また、がん以外で上昇する疾患や要因にはどのようなものがあるのかいくつか挙げてみましょう。

- ◆CEAは大腸や胃などの消化器や肺など幅広く臓器のがんをチェックします。肝硬変、長期の喫煙、炎症性腸疾患などでも上昇します。
- ◆CA19-9は膵臓がん、胆嚢がん、胆管がんなどをチェックします。膵炎、胆石、子宮筋腫、卵巣のう胞などでも上昇します。
- ◆AFPは肝臓がんなどをチェックします。肝炎や肝硬変などでも上昇します。
- ◆PSAは前立腺がんをチェックします。このマーカーは早期発見が可能です。前立腺肥大、前立腺炎等でも上昇します。
- ◆CA125は子宮がんや卵巣がんなどをチェックします。妊娠、月経、子宮筋腫、卵巣のう腫等でも上昇します。

この他にも何十種類もの腫瘍マーカーがあります。

### 腫瘍マーカー検査で注意することは？

がん以外の疾患や要因で数値が高くなることもあること、また、がんがあっても数値が上昇しないことがあります。腫瘍マーカーだけではがんを診断することはできません。CT、MRI、内視鏡などの画像検査での精査が必要です。自分で判断せず必ず医療機関でご相談ください。



## 「母の日」カーネーションの花言葉

「母の日」が生まれたのは、20世紀初頭のアメリカで、日本には明治末期から大正にかけて広まったそうです。毎年5月の第二日曜日が母の日として制定され、母親に感謝の気持ちを表す日として定着しています。

母の日には、赤いカーネーションを贈るのが定番でしたが、近年はカーネーションの色も増えてきて、ピンクやオレンジ、紫、青、白、黄、薄緑なども見かけるようになりました。赤のカーネーションの花言葉は「母の愛」「愛を信じる」「熱烈な愛」、ピンクは「感謝」「上品・気品」「温

かい心」「美しい仕草」、オレンジは「純粋な愛」「清らかな慕情」「あなたを愛します」、紫は「気品」「誇り」、青は「永遠の幸福」などです。白いカーネーションは「尊敬」「純潔の愛」という花言葉がありますが、「亡き母をしのぶ」という意味もあるので健在中の母親には避けたほうがいいでしょう。また、黄は「美」「友情」という意味の他に、「軽蔑」という意味もあるので避けたほうがよいかもしれません。



### 健診センターからのお知らせ

ー新型コロナウイルス感染症対策についてー

5類感染症に移行後も、引き続き感染予防のため、マスク着用、手洗い、換気等にご協力ください。発熱、感冒症状、息苦しさ、強いだるさ、下痢などの症状がある、または続いている方は、検査が実施できない場合があります。体調不良により来院できないときは、健診センターまでご連絡ください。

健診のご予約・お問い合わせは

下記までお気軽にお電話ください。

624-0906  
舞鶴市字倉谷427 健診センター  
TEL (0773) 75-1920  
FAX (0773) 75-7380  
月～金 8:30～17:00  
(土・日・祝日・年末年始12/29～1/3・創立記念日6/1休)

